

< 特別寄稿 >

正山征洋先生のご厚意で所蔵されている「ボタニカルアート」の一部を紹介させていただく事になりました。大変貴重で興味深く、芸術性も高い作品に加え先生自ら解説されています。

ボタニカルアート

九州大学名誉教授・長崎国際大学名誉教授

正山征洋先生

第72回

セイヨウコウホネ



セイヨウコウホネの学名が *Nuphar lutea* で、*Nuphar* はアラビア語を語源とした“スイレン”を示し、*lutea* は“黄色の”を意味します。本種はヨーロッパから西アジアの湖水に広く分布しています。初夏花柄を延ばし黄色花を開きます。

薬局方には形態がよく似た日本のコウホネやネムロコウホネの根が川骨として収載されています。ナファラミン等のアルカロイド、縮合型タンニン等を含んでいます。川骨は駆お血作用、止血、利尿等に用いられ、また、治打撲一方等の漢方薬にも配合されます。

本画はカーチスによる1803年の作です。